

令和5年司法試験予備試験口述試験の結果（最終合格発表）を受けて

2024年2月1日

1 令和5年司法試験予備試験口述試験の結果（最終合格発表）

本日、法務省大臣官房人事課より、令和5年の司法試験予備試験口述試験（以下、「口述試験」といいます。）の結果が発表されました。結果は、以下のとおりです。

(1) 受験者数・合格点・合格者数

受験者数：487人

（令和4年：481人、令和3年：476人、令和2年：462人、令和元年：494人）

合格点：119点以上

（令和4年：119点以上、令和3年・令和2年・令和元年：119点以上）

合格者数：479人

（令和4年：472人、令和3年：467人、令和2年：442人、令和元年：476人）

合格率：約98.36%

（令和4年：約98.13%、令和3年：約98.11%、令和2年：約95.67%、令和元年：約96.36%）

(2) 合格者の年齢（本年12月31日現在）

最低年齢：16歳

（令和4年：18歳、令和3年：17歳、令和2年：18歳、令和元年：19歳）

最高年齢：69歳

（令和4年：64歳、令和3年：64歳、令和2年：59歳、令和元年：63歳）

平均年齢：26.91歳

（令和4年：27.73歳、令和3年：26.28歳、令和2年：25.89歳、令和元年：26.03歳）

※ 今年の合格者の最低年齢は過去の予備試験の中で一番低く、また最高年齢も一番高い年齢であったことが注目に値します。

(3) 最終学歴別

大学卒業：122人

（令和4年：87人、令和3年：60人、令和2年：57人、令和元年：60人）

大学在学中：288人

（令和4年：196人、令和3年：252人、令和2年：242人、令和元年：251人）

法科大学院修了：22人

（令和4年：33人、令和3年：21人、令和2年：21人、令和元年：32人）

法科大学院在学中：21人

(令和4年：126人、令和3年：100人、令和2年：97人、令和元年：116人)

※ 今年の法科大学院在学中の合格者数が過去と比較して大幅に減少しているのは、今年から司法試験の法科大学院生の在学中受験が可能となったことに起因するものと推察されます。

2 口述試験に合格するためには

口述試験の受験者は、難関とされる予備試験短答式試験及び論文式試験の双方とも合格しています。そのため、口述試験の受験者のレベルは全体的に非常に高いといえますが、その中にもあっても、口述試験に合格できない受験者は、約2～5%程度存在します。

このことから、口述試験は、口述試験特有の対策を怠らなければほぼ確実に合格することができる試験である一方、口述試験特有の対策を講じることなく漫然と受験すれば不合格となるリスクが決して看過できない程度に存在する試験だと考えるべきです。

口述試験においても、出題された問題に対して解答するという形式に変わりはありません。しかし、口述試験の最も重要なポイントは、面接官（主査）と直接コミュニケーションを取りながら口頭で解答するという点です。短答式試験や論文式試験にはない独特の緊張感が受験者のメンタルに直接作用するため、うまくコミュニケーションを取ることができず、実力を発揮できないまま試験が終わってしまうという事態も起こり得ます（短答式試験や論文式試験であれば容易に解答できる内容であるにもかかわらず）。

そこで、口述試験を突破して最終合格を勝ち取るために最も効果的な対策は、実戦形式の対策、すなわち「口述模試」です。これを受けることで、実際の現場でも過度に緊張することなく、実力を発揮することが可能となるでしょう。

3 これから予備試験の最終合格を目指す方へ

最終合格者のうち、最も高い割合を占めているのは「大学在学中」の受験者です（最終合格者479人中、288人が「大学在学中」の受験者です）。このことから分かりますとおり、予備試験は、予備校の入門講座等を活用して効率的な勉強を行うことによって、大学在学中でも最終合格することが十分に可能な試験だということができます。また、司法試験の受験資格を一度喪失してしまったけれども、予備試験に最終合格して再度司法試験にチャレンジし、見事司法試験を突破される方も大勢いらっしゃいます。

予備試験に最終合格し、司法試験にも最終合格して法曹を目指すために最も重要なことの1つは、「できるだけ早い段階で効率的な学習を積み重ねること」です。

皆様が司法試験及び予備試験に合格なさることを心から祈念致します。

以上